

保育計画成果報告書

法人名等	株式会社エスエフジー
施設名	はなな保育園本園
報告者（役職）	飯塚 いづみ（園長）
住所・連絡先	栃木県佐野市田之入町 927-1
	【TEL】 0283-55-6555 【E-mail】 sfg_hh@mirun.sctv.jp

○タイトル（保育計画）

わくわく・ドキドキがいっぱい詰まった宝箱のような保育園

○主な助成備品

低年齢児用ひよこブランコ・幼児4人用ブランコ

1. 保育計画策定の目的

子どもたちの『やりたい』気持ちは様々な環境から沸き起こってきます。自然との関わり、友だちとの関わり、保育士との関わり、遊具との関わり…。私たちは子どもたちを取り巻く環境全てが、子どもたちの学びにつながると考えています。

当園はまわりを山々に囲まれ、春には鳥のさえずりを聞き、夏には木陰にそよぐ心地よい風を感じ、秋には色とりどりの木の葉で遊び、冬には霜柱を踏みしめて音と感触を楽しんだりと五感で季節を感じ、自然と常に関わり合って遊ぶ事が出来る恵まれた環境に立地しています。そして、更なる子どもたちの『やりたい』を広げるために遊具での遊びも積極的に取り入れていきたいと考えました。遊具での遊びの可能性として、「筋力の発達を助ける」

「体のコントロール力を身に付ける」「競争心」「チャレンジ精神」が育まれると期待されます。

ブランコは昔からあるシンプルな遊具ではありますが、全身を使って遊び、バランス感覚を養う乗り物です。と同時に、乗り方によっては危険な場合もあります。先に述べたような運動機能の向上、且つ危険を知る、更には危険を回避する能力も育つと考えます。また、低年齢児においては、保育士が見守る中、優しく背中を押してもらい漕ぐことで愛着関係を深く育み、3歳以上時児になれば約束事を決め、みんなでそれを守りながら乗るなど、子どもたちの心の成長も期待できると考え保育計画を策定しました。



【当園の外観】園庭の中心には大小の築山があります。そして、築山の奥には広いグラウンドがあり、子どもたちは自由に行き来しています。

2. 具体的な実施内容

〈乳児用ブランコ〉

○設置場所

乳児の保育室の近くに設置し、常に子どもたちの目にする場所に置くことで、ブランコへの親しみ・安心感を感じられるよう配慮しました。

○職員の配慮

低年齢児では乗りたい一心で動いているブランコに近づいて行ってしまいますので、保育士は常に子どもから目を離さず、動きを予測しながら、危険を察知し、援助・回避をしました。



○子どもの姿



設置当初から、子ども自らブランコへ近づき、指さしをしたり触れたりして遊びたい気持ちを保育士へ伝えてきました。子どもを乗せ優しく揺らすとニコニコと笑顔を見せる子、大きな声ではしゃぐ子などそれぞれの表現で喜びを伝えその思いを感じることができました。

時には順番が待てず泣いたりする子も見られますが、その都度保育士が「10回乗ったら交代ね」など声がけしながら、一人ひとりが満足できるよう心がけたところ、徐々に子ども同士で

も「順番ね」と言って交代したり、先に乗っていた子が終わるまで待つなど譲り合う意識が芽生えていきました。

いつもブランコのまわりは乗りたい子や押してあげたい子でとても賑やかです。



〈幼児用ブランコ〉

○設置場所

他の遊具と混み合わないよう、グラウンドに設置しました。グラウンドが園庭よりも高い位置にあるためブランコから見える景色は広々とし開放感にあふれています。

○職員の配慮

動いているブランコは急には止まらないことを伝え、安全に楽しく乗るにはどうしたら良いかを、子どもたちと話し合い確認し合う時間を十分に持ちました。



○子どもの姿

設置当初3歳児クラスの子どもたちは、背もたれがないブランコに座り方が安定せず、持ち手がしっかり握れないなど、バランスも悪くぎこちなさを感じられました。しかし、上のクラスの友だちが乗っている様子を見たり、保育士が見守る中、繰り返し乗ることで徐々に慣れ、「安定して座る」「ブランコの動きに合わせて体の重心を動かす」「足でブランコを漕ぐ」という動作がスムーズに行えるようになってきました。

また、保育士に背中を押してもらい乗ることを楽しんでいた子どもたちも、一人で上手に漕げるようになると、「今度は僕たちが押してあげる番」と友だち同士はもちろん、小さな友だちにも優しく背中を押す姿が自然に見られるようになりました。友だちとの関わりの広がりを感じられる場面でした。

ブランコが大きく揺れる心地よさを楽しむ子、ブランコを漕ぎながら大きな声で大好きな歌を歌う子、友だちを誘い合いブランコがすれ違うたびに大笑いをする子などブランコによって子どもの運動機能の充実だけでなく感性の豊かさも育まれました。

一人が乗り始めると次々と乗り出し、ブランコの前には順番待ちの子どもたちでいっぱいです。



3. その成果と評価

初めは不安そうにブランコに座っていた子どもたちが、今では風を切ってブランコを漕いでいます。ブランコ遊びを通して、「子どもの体力向上」「バランス感覚を養う効果」「体を支える筋力を鍛える」「平衡感覚が養われる」など様々な効果を実感しています。そして、どこまで高く漕げるのかという「チャレンジ精神」や、これ以上は「危険」という感覚も磨かれました。

乳児用ブランコ・幼児用ブランコとして使用してきましたが、成長が進むにつれ乳児・幼児関係なく遊ぶ姿が多く見られるようになり、そこで生まれる異年齢での関わりや、順番を待つことや譲り合いなど、そこには小さな社会があり、子どもたちが自分の体験をもとに社会を作り上げていく過程を見ることができました。

設置当初期待していた運動機能の向上、危険を回避する能力を身につける以上に、情緒の安定や保育士との愛着関係、友だちとの関わりの深まりが育まれたことに喜びを感じています。

4. 今後の課題と展望

当園が目指している保育は子どもたちの『やりたい』を可能な限り実現する保育です。子どもたちの『やってみたい』気持ちの中にはチャレンジ精神や探求心の芽生えがたっぷり詰まっています。それに伴い、危険と隣り合わせの状況も増えて来ると思います。ブランコ遊びを通して自分の限界にチャレンジする体験をしながら、危険を見極める力を養い、生活の中で応用できるようになって欲しいと思っています。

そして、夕方の園庭でブランコに乗りながら、今日楽しかったことや、明日への期待を語り合う子どもたちの姿を目にするように、いつまでもブランコが子どもたちにとってホッと安心できる場所であり続けて欲しいと願っています。

以上